

解体修理を終えて、  
「帰来迎図」が帰ってきました!

### 1 修理後の「帰来迎図」

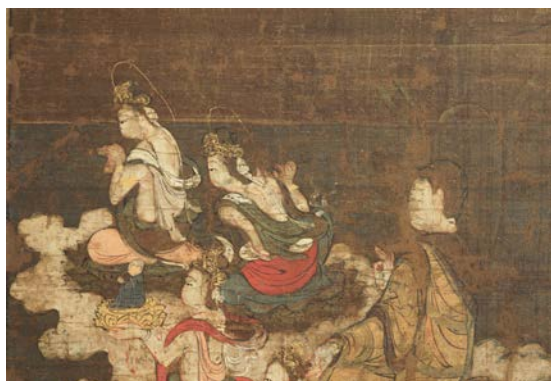
修理前の写真と見比べてみてください。

表具はもとの裂をそのまま使ったので「どこが変わったのか、あんまりよく分からない」という方も多いかもしれませんが、実物を見ると一目瞭然!ということで、来春、展覧会で実物をお披露目したいと思います。

たくさんの技と知恵が詰まった文化財修理的一幕をご覧ください。

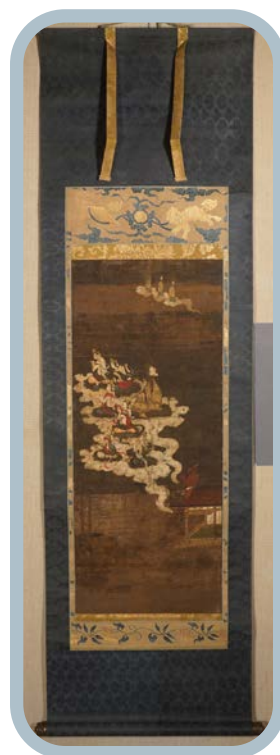
### 2 修理にともなう調査で見えてきたもの

- ◆ とても細やかな彩色表現
- ◆ 画面下方の庭の描写
- ◆ 背景や虚空の色彩



中世の仏教絵画として、とてもオーソドックス、かつ丁寧な彩色表現が見られました。これは、「帰来迎図」を描いた絵師が、基礎的なトレーニングをきちんと受けてきたことを示しています。そして、背景や虚空には面白い彩色方法も確認されました。この辺りは、展覧会にて!

ヨレ<sup>よ</sup>としていたのが  
シヤキ<sup>し</sup>としたのは  
間違いありません



<修理前>



<修理後>



上空をゆく三人  
僧ではなく如来かもしれません

### 3 赤鬼と青鬼の正体は!?

空っぽの屋敷、合掌して見送る赤鬼と青鬼、上空をゆく三人など、描かれた情景は背後に何らかの物語があることをほのめかしています。

修理で見えてきたものは多いので、この説話物語についても調べを進めていきたいと思っています。

